

美東V 全国切符

浦添市長杯 男子神森は16度目 中学ハンド

ハンドボールの第14回浦添市長杯争奪・第45回県中学校新人大会最終日は13日、浦添市民体育館で行われ、女子決勝は美東が仲西を延長の末に26-23で破つて5年ぶり2度目の優勝を飾った。男子決勝は神森が浦添市長杯を2年ぶり16度目の制覇を飾った。男子決勝は神森が浦添市長杯を2年ぶり16度目の制覇を飾った。男子決勝は神森が浦添市長杯を2年ぶり16度目の制覇を飾った。



女子決勝 美東一仲西 前半、美東の上間望愛がシュートを放つ＝浦添市民体育館（金城健太撮影）

最後まで、ゴールに向かう姿勢を崩さなかった。美東が延長で仲西を破り、昨年9月の八重瀬町長杯の雪辱を果たした。くしくも、昨秋と同じ3点リードで後半へ。「相手はすぐに修正できるチーム。3点はセーフティリードではない」と平良徳彦監督。案の定、攻守がかみ合っていた仲西に追いつかれ、延長に突入した。それでも、終盤に失速した秋とは違った。名嘉陽菜、西田ころの1年生の得点で逆転を許さず、最後は速攻の連続で決着。平良監督の制止を振り切つてロングパスを敢行し、速攻につな

延長で速攻連発 美東

最後に、ゴールに向かう姿勢を崩さなかった。美東が延長で仲西を破り、昨年9月の八重瀬町長杯の雪辱を果たした。くしくも、昨秋と同じ3点リードで後半へ。「相手はすぐに修正できるチーム。3点はセーフティリードではない」と平良徳彦監督。案の定、攻守がかみ合っていた仲西に追いつかれ、延長に突入した。それでも、終盤に失速した秋とは違った。名嘉陽菜、西田ころの1年生の得点で逆転を許さず、最後は速攻の連続で決着。平良監督の制止を振り切つてロングパスを敢行し、速攻につな



女子を制した美東

だが、最大7点のリードを2点差まで縮められた。昨年9月の八重瀬町長杯で神森は7得点のセンター伊禮颯雅を筆頭に、各ポジションからきつちり加

点の取り合い 踏ん張り制す 神森

神森

は19点差で勝っている相手だけに、選手たちの笑顔は控えめだった。散らされたパスに守備がかき回され、相手の得点源2人に計21点を許した。守備で流れを止めなければ、得意の速攻も出せない。昨夏の全国3位のメンバーが

も一度も逆転を許さず、最終盤の速攻で突き放した。男子神森は相手の得点源を抑えられず速攻も出せなかったが、各ポジションから確実に加点。仲西の最終盤の反撃を振り切った。

浦添	26	13	7	14	宮里
仲西	23	12	25	仲西	
美東	26	8	11	23	仲西
神森	8	3	16	7	昭葉付



男子優勝の神森

10人残る層の厚さを生かすも踏ん張った展開をたたえながらも「どんなに点を取つても、相手の攻撃を止めないと苦しい」と、あえて厳しく振り返る。伊禮主将は「勝つて良かった」と胸をなで下ろし、全国に向けて「1対1の守備を強化して、抜かれてもカバーして守れるようにしたい」。課題は明確だ。